

2020 年度（令和 2 年度）

シラバス

理学療法学科 夜間部

履正社医療スポーツ専門学校

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	医療倫理学		担当教員	吉本 陵		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	授業計画に沿って様々な問題を取り上げ、解説します。					
達成目標	医療現場で生じる倫理的な問題を自ら考えるための論理的な能力を養成すること。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	ガイダンス&イントロダクション	事後:ガイダンスの内容に沿って今後の学習計画を立てる。		0.5	
	2	論理的に考えるということ1	事後:授業中課題を復習する。		0.5	
	3	論理的に考えるということ2	事後:授業中課題を復習する。		0.5	
	4	論理的に考えるということ3	事後:授業中課題を復習する。		0.5	
	5	論理的に考えるということ4	事後:授業中課題を復習する。		0.5	
	6	論理的に考えるということ5	事後:授業中課題を復習する。		0.5	
	7	倫理的な考察の基礎1	事後:授業中課題を復習する。		0.5	
	8	倫理的な考察の基礎2	事後:授業中課題を復習する。		0.5	
	9	倫理的な考察の基礎3	事後:授業中課題を復習する。		0.5	
	10	倫理的な考察の基礎4	事後:授業中課題を復習する。		0.5	
	11	倫理的な考察の基礎5	事後:授業中課題を復習する。		0.5	
	12	倫理的な考察の基礎6	事後:授業中課題を復習する。		0.5	
	13	臨床における倫理的な問題1	事後:授業中課題を復習する。		0.5	
	14	臨床における倫理的な問題2	事後:授業中課題を復習する。		0.5	
	15	全体のまとめ	事後:全体を振り返り、分からないところを解消する。		0.5	
授業方法	講義を基本とし、適宜グループワークを組み込みます。					
評価方法	論述形式の試験の結果に、グループワークへの参加度および授業態度を加味して評価します。					
テキスト	適宜配布します。					
参考文献	適宜指示します。					
履修上の注意事項	私語、及び他の受講者の迷惑になる態度・行為は厳禁。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	心理学		担当教員	安田 傑		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	心についての学問は、思想を中心とした「哲学」の範疇として長い歴史を有しています。しかし、その心について、実験による科学的検証が可能となった「心理学」は、今から約140年前にようやく成立した新しい学問です。1年生の「心理学」では、心の性質について科学的にはどのように解明されているのかを学び、2年生で学ぶ悩みを抱えた人への心理学の応用領域である「臨床心理学」へとつなげることを目的とします。					
達成目標	1. 「心理学」と「臨床心理学」の歴史的背景、そして初期の理論である精神分析の考え方を理解できる。 2. 発達に伴う心の変化に関する諸理論を理解できる。 3. 経験に基づく変化(学習)と、その基盤となる記憶の性質を理解できる。 4. ストレスの影響、特に死や障害に直面した人間の心理的過程を理解できる。 5. 人間の個人差(パーソナリティ)に関する諸理論を理解できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	心理学の歴史・学問としての全体像	事前:心に関する様々な俗説に触れておく 事後:心理学と臨床心理学の違いについて復習			2
	2	フロイトの心の構造理論	事前:無意識についての予習 事後:心の3領域について復習			2
	3	防衛機制	事前:自我の機能について復習 事後:防衛機制に関する情報収集			2
	4	分析心理学	事前:フロイトの理論の復習 事後:ユングの理論の復習			2
	5	発達心理学1(エリクソンの理論—乳幼児～幼児期後期)	事前:自分の過去を振り返る 事後:自分の過去をエリクソンの理論で理解する			2
	6	発達心理学2(エリクソンの理論—学童期～青年期)	事前:今の自分の悩みをまとめる 事後:今の悩みをエリクソンの理論で理解する			2
	7	発達心理学3(エリクソンの理論—成人期～老年期)	事前:エリクソンの理論の予復習			2
	8	発達心理学4(ピアジェの理論・ボウルビーの理論)	事前:乳幼児に関する様々な情報を集める 事後:集めた情報を、ピアジェやボウルビーの理論で理解する			2
	9	学習心理学(古典的条件づけ・オペラント条件づけ)	事前:行動主義の歴史について復習			2
	10	認知心理学(記憶)	事前:学習の仕組みについて復習			2
	11	ストレスと、その対処法	事前:自律神経系の仕組みについて復習			2
	12	死や障害の受容における心理過程	事前:防衛機制とストレスについて復習			2
	13	パーソナリティ理論(類型論)	事前:自らの性格に関し、他者から意見を集める 事後:集めた意見を類型論で理解する			2
	14	パーソナリティ理論(特性論)	事前:類型論の復習 事後:授業内で実施した心理テストを整理する			2
	15	まとめ	事前:これまでの心理学の授業内容を総復習			2
授業方法	板書を中心とした講義を行う。また、必要に応じて動画上映やレジュメ配布を行う。					
評価方法	定期試験(100%)					
テキスト	石田彰/他編著 『臨床心理学用語辞典』 オーム社					
参考文献						
履修上の注意事項						

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	表現論		担当教員	中西 裕子		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	本学では、実習前後のレポートを始めとして、形式・内容ともに充実した提出物を作成することが求められる。この点を踏まえて、文章作成のための基礎を学び、一定レベルの表現力を養成する。					
達成目標	1.常識的な語彙を身につける。 2.簡潔な一文を作成する。 3.段落を構成する。 4.適切な見解を述べる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	文法的に誤りのない一文を書く(主語・術語)	事前:テキスト、電子辞書の準備		0.5	
	2	文法的に誤りのない一文を書く(修飾語・被修飾語)	事前:前回の復習		1	
	3	表現・表記に注意する(一人称・文末)	事前:前回の復習		1	
	4	第1回～第3回の授業内容の確認(生徒答案の検証)	事前:前回の復習		1	
	5	段落を構成する(構成メモの作成)	事前:前回の復習		1	
	6	論述までの過程を定着させる(下書きの推敲)	事前:前回の復習		1	
	7	指定字数の答案を作成する(400字・600字)	事前:前回の復習		1	
	8	指定字数の答案を作成する(800字・1000字)	事前:前回の復習		1	
	9	第1回～第8回の授業内容の確認	事前:前回の復習		1	
	10	医療問題の新聞記事を読む(要約)	事前:前回の復習		1	
	11	スポーツ問題の論説を読む(見解論述の作成)	事前:前回の復習		1	
	12	その他の社会問題に関する資料を読む(資料の把握と見解の発表)	事前:前回の復習		1	
	13	自分自身のことを述べる(自己アピール・志望動機・理想の理学療法士)	事前:前回の復習		1	
	14	敬語を学ぶ(礼状の作成)	事前:前回の復習		1	
	15	全授業のまとめ	事前:前回の復習		1	
授業方法	講義と演習					
評価方法	授業内の小テスト、提出物、終講試験					
テキスト	石黒圭/著 『論文・レポートの基本』 日本実業出版社					
参考文献	随時オリジナルプリントを配布					
履修上の注意事項	テキストおよび学校規定の電子辞書、配布済みプリントを毎回持参すること					

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	基礎ゼミナール I		担当教員	木下 拓真、井口 祥平		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	理学療法学を学ぶ上で、必要最低限の準備のための講義である。内容は多岐にわたる。					
達成目標	①学校・学科ルールを理解と順守 ②学業に対する取り組み方を理解する ③学生生活全般のスケジュールリング能力の向上 ④専任教員と学生の信頼関係の構築 ⑤社会人(医療人)としての礼儀・コミュニケーション・マナーの理解と実践					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	基礎ゼミナールオリエンテーション				
	2	学校概要、学則、細則の理解		事後:各種書類を熟読	1	
	3					
	4	新入生オリエンテーション				
	5	理学療法の学び方①		事後:配布シラバスを熟読	1	
	6	理学療法の学び方②				
	7	学生生活における収支計画の立案				
	8	コミュニケーション・性格診断				
	9	卒業生シンポジウム				
	10	チームビルディング				
	11	前期スケジュールの立案				
	12					
	13	学科教員プレゼン		事後:各教員プレゼンテーションに対するレポート作成	2	
	14					
	15	基礎ゼミナール総括				
授業方法	座学・グループワーク					
評価方法	出席率・レポート課題					
テキスト	各講義プリント配布					
参考文献	特になし					
履修上の 注意事項	カラダ・ココロ・アタマを高校生から専門学生に変えるための時間である。自身がこれから送る4年間の専門学生生活をどのように過ごすか?を積極的に考えること。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	基礎ゼミナールⅡ		担当教員	木下 拓真、井口 祥平、 山口 宗明 保田 俊		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	理学療法を学ぶうえで、なぜ高校物理・生物・数学が必要かを理解しその分野の復習を行う					
達成目標	理学療法を学ぶうえで必要な高校物理・生物・数学を理解する					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	基礎ゼミⅡオリエンテーション	事後:講義終了後の課題		2	
	2	理学療法を学ぶためになぜ「物理」が必要か? ①	事後:講義終了後の課題		2	
	3	理学療法を学ぶためになぜ「物理」が必要か? ②③	事後:講義終了後の課題		2	
	4					
	5	理学療法を学ぶためになぜ「数学」が必要か? ①②	事後:講義終了後の課題		2	
	6					
	7	理学療法を学ぶためになぜ「数学」が必要か? ③	事後:講義終了後の課題		2	
	8					
	9	理学療法を学ぶためになぜ「生物」が必要か? ②③	事後:講義終了後の課題		2	
	10					
	11	基礎ゼミナールⅠスケジュールの振り返りと修正	事後:講義終了後の課題		2	
	12	理学療法を学ぶために「なぜ論理的思考」が必要か?				
	13	アクティブラーニング	事後:自己学習		3	
	14					
	15					
授業方法	講義形式・アクティブラーニング					
評価方法	ペーパーテスト・レポート					
テキスト	中村隆一/他著 『基礎運動学』 医歯薬出版 配布資料					
参考文献						
履修上の 注意事項						

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	栄養学		担当教員	酒井 恵		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	情報社会ではあるけれども情報に流されず、栄養の基本の「キ」を知り、理学療法を行う上でも適切なアドバイスができるように！					
達成目標	栄養学の基礎・主な病態栄養学の基礎を理解し、簡単でも良いのでアドバイスができるように。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	リハビリテーションにおける栄養の知識の重要性	特になし			
	2	栄養の基礎	事後:復習			2
	3	五大栄養素の役割①(炭水化物)	事後:復習			2
	4	五大栄養素の役割②(たんぱく質)	事後:復習			2
	5	五大栄養素の役割③(脂質)	事後:復習			2
	6	五大栄養素の役割④(ビタミン)	事後:復習			2
	7	五大栄養素の役割⑤(ミネラル)	事後:復習			2
	8	主な病態の栄養学①メタボリックシンドローム	事後:病態の基礎の復習			2
	9	主な病態の栄養学②糖尿病	事後:病態の基礎の復習			2
	10	主な病態の栄養学③高血圧・脳卒中	事後:病態の基礎の復習			2
	11	主な病態の栄養学④脂質異常症	事後:病態の基礎の復習			2
	12	主な病態の栄養学⑤廃用症候群	事後:病態の基礎の復習			2
	13	ダイエット	事後:病態の基礎の復習			2
	14	スポーツ栄養学入門	事後:病態の基礎の復習			2
	15	まとめ	事後:栄養学の総復習			2
授業方法	テキスト・パワーポイント・補足資料					
評価方法	テスト・出席点・授業態度					
テキスト	杉山英子/他著 『基礎栄養学』 化学同人 栢下淳/他編著 『リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎』 医歯薬出版					
参考文献						
履修上の 注意事項	居眠り頻度の高い生徒は最終点数が出た時点で1~5点の減点とする。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	英語		担当教員	土屋 素明		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	1. 一般科学および基礎医学を中心とした専門英語及びその使用法の習得。 2. オーディオ教材を使用したリスニングトレーニングと英語表現。					
達成目標	1. 一般科学、生理学、解剖学を中心に、基礎医学関連の専門用語の正確な発音とボキャブラリー向上。 2. スピーキング及びリスニング能力を中心に、基礎的な英語コミュニケーション能力の向上。					
			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)			
授 業 計 画	1	導入・身体英単語・英語学力試験				
	2	科学・医学英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			2
	3	栄養学英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			2
	4	解剖学英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			2
	5	細胞英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			2
	6	組織英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			2
	7	骨組織英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			2
	8	軸骨格1英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			2
	9	軸骨格2英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			2
	10	付属肢骨格1英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			2
	11	付属肢骨格2英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			2
	12	関節英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			2
	13	筋組織英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			2
	14	筋肉系英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			2
	15	骨格筋1英単語・模試	事前:英単語試験準備			1
授業方法	1. 用語の発音、スペリング、使用方法の解説、及び暗記。 2. オーディオによるリスニング。 3. 英作文。					
評価方法	1. 授業中に実施する英単語試験 2. 質問、発言、発声など積極的な授業態度 3. 筆記試験					
テキスト	英語出版編集部/編 『究極の英語リスニング Vol 1』 (株)アルク					
参考文献	配布資料					
履修上の 注意事項	1. 毎回実施される英単語試験の為の暗記。 2. 積極的な態度で授業に臨み、質問や発言は適時行うこと。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	医学英語		担当教員	土屋 素明		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	1. リハビリテーションを中心とした専門英語の習得と、使用法の習得。 2. 英文による健康及び基礎医学関連資料の読解。 3. 臨床現場で必要となる英語表現や英語を使ったコミュニケーション方法。					
達成目標	1. 基礎医学、特にリハビリテーションに関する重要基礎英語の習得。 2. 英文による基礎医学資料を読解出来る。 3. 臨床現場で必要となる英語表現を理解し、使える。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	骨格筋1英単語・英文読解方法について	事前: 英単語試験準備 事後: 読解方法の復習		2	
	2	骨格筋2英単語・基礎英文の読解	事前: 英単語試験準備 事後: 読解資料の復習		2	
	3	骨格筋3英単語・基礎英文の読解	事前: 英単語試験準備 事後: 読解資料の復習		2	
	4	神経系英単語・基礎英文の読解	事前: 英単語試験準備 事後: 読解資料の復習		2	
	5	循環器系英単語・医学関連資料の読解	事前: 英単語試験準備 事後: 読解資料の復習		2	
	6	消化器系英単語・医学関連資料の読解	事前: 英単語試験準備 事後: 読解資料の復習		2	
	7	内分泌系・呼吸器系英単語・医学関連資料の読解	事前: 英単語試験準備 事後: 読解資料の復習		2	
	8	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解	事前: 英単語試験準備 事後: 読解資料の復習		2	
	9	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解	事前: 英単語試験準備 事後: 読解資料の復習		2	
	10	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解・医療英会話	事前: 英単語試験準備 事後: 読解資料の復習		2	
	11	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解・医療英会話	事前: 英単語試験準備 事後: 読解資料の復習		2	
	12	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解・医療英会話	事前: 英単語試験準備 事後: 読解資料の復習		2	
	13	骨格系英単語・医学関連資料の読解・医療英会話	事前: 英単語試験準備 事後: 読解資料の復習		2	
	14	骨格筋英単語・医学関連資料の読解・医療英会話	事前: 英単語試験準備 事後: 読解資料の復習		2	
	15	医療英会話・模試	事前: 英単語試験準備		1	
授業方法	1. 用語の発音、スペリング、使用方法の解説、及び暗記。 2. 英語文献の講読、読解及びディスカッション。 3. 医療現場における英会話。					
評価方法	1. 授業中に実施する英単語試験 2. 質問、発言、発声など積極的な授業態度 3. 筆記試験					
テキスト	配布資料					
参考文献	配布資料					
履修上の 注意事項	1. 毎回実施される英単語試験の為の暗記。 2. 積極的な授業態度で授業に臨み、質問や発言は適時行うこと。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	健康学概論		担当教員	春本 十保子、是澤 克彦、宮崎 高平 塩見 太一朗、太田 尚吾		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	各論を学ぶ前の入門としてモチベーション・興味が高まる様、基礎知識だけでなくリハビリテーションの実際を提示。動画や画像を用いて患者様との関わりのイメージ化を図る。					
達成目標	人間の身体の正常を知り、各疾患の基礎(入門)を習得し理学療法士が関わる領域の広さを理解する。また、様々な時期や領域のリハビリテーションの実際がイメージ出来、健康に関する注意点を理解する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	学習目標・脳血管リハビリテーション①	事後:資料復習		1.5	
	2	脳血管リハビリテーション②	事後:資料復習		1.5	
	3	循環器疾患とリハビリテーション	事後:資料復習		1.5	
	4	呼吸器疾患とリハビリテーション	事後:資料復習		1.5	
	5	リスク管理について・急性期リハビリテーション	事後:資料復習		1.5	
	6	呼吸・循環からみたフィジカルアセスメント	事後:資料復習		1.5	
	7	生活習慣病①	事後:資料復習		1.5	
	8	生活習慣病②	事後:資料復習		1.5	
	9	スポーツと運動器リハビリテーション	事後:資料復習		1.5	
	10	運動療法の実際	事後:資料復習		1.5	
	11	整形疾患とリハビリテーション①慢性期	事後:資料復習		1.5	
	12	整形疾患とリハビリテーション②術後	事後:資料復習		1.5	
	13	感染症とその対策	事後:資料復習		1.5	
	14	ウイメンズヘルス	事後:資料復習		1.5	
	15	癌リハビリテーション・メンズヘルス	事後:資料復習		1.5	
授業方法	講義(人の身体の基礎・各疾患入門等)と臨床場面の動画を見てDiscussion等					
評価方法	筆記試験					
テキスト	テキストではなく資料を配布いたします。					
参考文献	各講義の中でスライド内に記載いたします。					
履修上の 注意事項						

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	解剖学 I		担当教員	安部 みき子		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	全身の骨格の学習には、骨格の模型を各自観察し、形態を理解する。筋学は筋の運動方向を理解したうえで、筋や骨格で構成する間隙などを把握したうえで、神経や脈管などとの関係を、局所解剖学として講義する。					
達成目標	リハビリテーションにおいて、さまざまな原因でおこる運動障害の機能を回復させることが重要である。運動器の基礎である骨や筋を理解すると同時に、支配神経ならびに脈管との関係を把握することを目的とする。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	解剖学ならびに運動器の総論	事前:解剖学の本をとにかく開いてみる		1	
	2	下肢の骨	事前:骨学実習の手引きの下肢骨の範囲を読み込むこと。		2	
	3	下肢の骨および関節・靭帯	事前:骨学実習の手引きの下肢骨の範囲を読み込むこと。		2	
	4	下肢の関節・靭帯および筋	事前:教科書に記載されている筋の区分を把握すること。		3	
	5	下肢の筋	事前:筋は支配神経が重要であるから、総論の神経を復習しておくこと		3	
	6	体幹の骨	事前:骨学実習の手引きの体幹の骨の範囲を読み込むこと。		2	
	7	体幹の骨および関節・靭帯	事前:骨学実習の手引きの体幹の骨の範囲を読み込むこと。		2	
	8	体幹の関節・靭帯および筋	事前:教科書に記載されている筋の区分を把握すること。		3	
	9	体幹の筋	事前:筋は支配神経が重要であるから、総論の神経を復習しておくこと		3	
	10	上肢の骨	事前:骨学実習の手引きの上肢骨の範囲を読み込むこと。		2	
	11	上肢の骨および関節・靭帯	事前:骨学実習の手引きの上肢骨の範囲を読み込むこと。		2	
	12	上肢の関節・靭帯および筋	事前:教科書に記載されている筋の区分を把握すること。		3	
	13	上肢の筋	事前:筋は支配神経が重要であるから、総論の神経を復習しておくこと		3	
	14	頭部の骨	事前:骨学実習の手引きの頭骨の範囲を読むこと。脳神経の復習。		3	
	15	頭部の骨および筋	事前:骨学実習の手引きの頭骨の範囲を読むこと。脳神経の復習。		3	
授業方法	スライドと模型を用いた講義。					
評価方法	コース終了時に行われる筆記試験の成績による。合格には総合して、60%以上の成績が必要である。					
テキスト	森於菟/他著 『分担解剖学1』 金原出版 寺田春水/他著 『骨学実習の手びき』 南山堂					
参考文献	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 医学書院 ネッター/著 『ネッター解剖学図譜』 丸善 伊藤隆/著 『解剖学講義』 南山堂					
履修上の 注意事項	予習をしっかりとすること。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	専門分野	単位(時間)	1(30)
科目名	解剖学Ⅱ		担当教員	池田 一雄		
実習内容	実務経験					
授業概要	本科目では、解剖学、組織学の形態学を中心にした細胞、組織、臓器の成り立ち、ならびにその基本的な機能について学ぶ。					
達成目標	1 細胞の構造と機能を説明できる。 2 上皮組織の構造と機能を説明できる。 3 間葉組織の構造と機能を説明できる。 4 臓器の構造と機能を説明できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	解剖学総論	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
	2	細胞・組織学総論①	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
	3	細胞・組織学総論②	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
	4	呼吸器①	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
	5	呼吸器②	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
	6	消化器①	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
	7	消化器②	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
	8	消化器③	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
	9	内分泌器	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
	10	腎泌尿器	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
	11	感覚器・皮膚	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
	12	生殖器①	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
	13	生殖器②	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
	14	発生学	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
	15	総まとめ	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習		1	
授業方法	PCによるプレゼンテーション					
評価方法	筆記試験					
テキスト	牛木辰男/著 『入門組織学』 南江堂					
参考文献						
履修上の注意事項						

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	解剖学Ⅲ		担当教員	木山 博資		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	中枢神経系と末梢神経系、および循環器系についての構造と機能について学ぶ。また、それらの基本的な病態について理解する。					
達成目標	(1)脳や脊髄の外観と内部構造について説明できる。(2)脳や脊髄の求心性・遠心性線維連絡と機能について説明できる。(3)脳神経や脊髄神経の知覚・運動・自律機能について説明できる。(4)心臓や血管の構造、繋がりについて理解し、その病態についても説明できる。(5)リンパ管リンパ節の構造やネットワークについて説明できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	中枢神経系の発生・外観、神経組織学	事前:ニューロンとグリアを教科書で理解する 事後:脳と脊髄の概観、脳室の復習		2	
	2	大脳、大脳基底核、辺縁系	事前:大脳、大脳基底核、辺縁系を教科書で予習 事後:大脳各部の名称機能、海馬、線条体の復習		2	
	3	間脳、中脳	事前:間脳と中脳を教科書で予習 事後:大脳各部の名称機能、海馬、線条体の復習		2	
	4	橋・小脳・延髄	事前:橋・小脳・延髄を教科書で予習 事後:橋・小脳を介する運動機能、延髄諸核の復習		2	
	5	脊髄	事前:脊髄を教科書で予習 事後:脊髄灰白質の機能、白質伝導路の復習		2	
	6	求心性遠心性伝導路	事前:伝導路を教科書で予習 事後:各種感覚伝導路と運動伝導路の復習		2	
	7	中枢神経系まとめ	事後:各種感覚伝導路と運動伝導路の復習		2	
	8	末梢神経系総論・脳神経1	事前:末梢神経と脳神経を教科書で予習 事後:脳神経の復習		2	
	9	脳神経2、脊髄神経1(頸神経叢)	事前:脳神経と脊髄神経を教科書で予習 事後:脳神経の復習、頸神経叢の復習		2	
	10	脊髄神経2(腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢)	事前:脊髄神経を教科書で予習 事後:各神経叢の復習		2	
	11	脊髄神経2(自律神経系)、末梢神経系まとめ	事前:自律神経を教科書で予習 事後:自律神経の復習、末梢神経の復習		2	
	12	脈管総論と心臓の外観	事前:血管の構造と心臓の外観を教科書で予習 事後:動脈と静脈の違い、心臓の栄養血管の復習		2	
	13	心臓の内面と機能、脳血管、頭頸部血管	事前:心臓の構造と脳血管を教科書で予習 事後:心臓の内面構造・弁、脳血管の復習		2	
	14	腹部血管、四肢の血管とリンパ系	事前:臓器の支配血管、四肢血管を教科書で予習 事後:臓器血管・四肢血管、リンパ系の復習		2	
	15	脈管系まとめ	事後:心臓、血管、リンパ系の総復習		2	
授業方法	プリント資料を配布し、それに沿って講義する。適宜演習をおこなう。					
評価方法	終了時に筆記試験をおこなう。60%以上の成績を合格とする。					
テキスト	木山博資/他編 『人体の解剖生理学』 金芳堂					
参考文献						
履修上の 注意事項	特になし					

開講時期	1年生 昼・夜間部 通年	分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	解剖学演習	担当教員	清水 浩之、山川 百代		
		実務経験			
実習内容					
授業概要	全身の骨格模型を利用し、骨や筋、関節運動作業を通して、理解を深める。				
達成目標	全身の骨格の名称を、見て答えられるようになる。 全身の筋の名称や筋の付着部を、見て答えられるようになる。 全身の関節運動の方向を理解できる。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション、骨学総論	事前:シラバスを熟読する 事後:骨の名称の予習	2	
	2	骨学 (下肢帯、自由下肢)	事前:骨学総論の復習 事後:骨学の復習	2	
	3	骨学・筋学 (下肢帯、自由下肢)	事前:筋名称の予習 事後:筋学の復習	2	
	4	下肢帯と自由下肢の関節運動	事前:関節運動の方向を予習 事後:骨・筋・関節運動の復習	2	
	5	骨学 (上肢帯、自由上肢)	事前:骨の名称の予習 事後:骨学の復習	2	
	6	骨学・筋学 (上肢帯、自由上肢)	事前:筋名称の予習 事後:筋学の復習	2	
	7	上肢帯と自由上肢の関節運動	事前:関節運動の方向を予習 事後:骨・筋・関節運動の復習	2	
	8	骨学 (体幹)	事前:骨の名称の予習 事後:骨学の復習	2	
	9	骨学・筋学 (体幹)	事前:筋名称の予習 事後:筋学の復習	2	
	10	体幹の関節運動	事前:関節運動の方向を予習 事後:骨・筋・関節運動の復習	2	
	11	骨学 (頭蓋)	事前:骨の名称の予習 事後:骨学の復習	2	
	12	骨学・筋学 (頭蓋)	事前:筋名称の予習 事後:筋学の復習	2	
	13	顔面の運動	事前:関節運動の方向を予習 事後:骨・筋・運動の復習	2	
	14	全身の骨学、筋学、運動 総復習	事前:過去に学習したことの復習 事後:過去に学習したことの復習	2	
	15	全身の骨学、筋学、運動 総復習	事前:過去に学習したことの復習 事後:過去に学習したことの復習	2	
授業方法	講義、骨模型を利用した作業にて行う。				
評価方法	出席率、小テスト、終期テスト				
テキスト	森 於菟/他著 『分担解剖学1』 金原出版				
参考文献	寺田 春水/他著 『骨学実習の手びき』 南山堂				
履修上の 注意事項	予習復習を怠らず、分からないことは積極的に質問すること。				

開講時期	1年生 夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	生理学 I		担当教員	高森 康晴		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	生理学は生命現象の仕組みや意義について総合的に解明する生命科学である。本講義では人体における構造物の生理機能を分子、細胞、器官、器官系レベルで学習する。					
達成目標	人体の構造と機能を有機的に理解し概説できるようになる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	細胞生理	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	2	末梢神経1	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	3	末梢神経2	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	4	筋	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	5	中枢神経1	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	6	中枢神経2(運動)	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	7	中枢神経3(感覚)	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	8	感覚器1(味覚、嗅覚)	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	9	感覚器2(視覚)	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	10	感覚器3(聴覚、平衡覚)	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	11	脳の高次機能1	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	12	脳の高次機能2	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	13	自律神経	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	14	循環器1	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	15	循環器2	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
授業方法	講義形式(パワーポイントとプリント)					
評価方法	筆記試験					
テキスト	岡田隆夫/他著 『標準理学療法学・作業療法学 生理学』 医学書院					
参考文献	大地陸男/著 『生理学テキスト』 文光堂 『PT/OT国家試験・基礎医学』 医歯薬出版					
履修上の 注意事項	予習、復習を行なうことが望ましい。					

開講時期	1年生 夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	生理学Ⅱ		担当教員	高森 康晴		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	生理学は生命現象の仕組みや意義について総合的に解明する生命科学である。本講義では人体における構造物の生理機能を分子、細胞、器官、器官系レベルで学習する。					
達成目標	人体の構造と機能を有機的に理解し概説できるようになる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	体液・血液1	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	2	体液・血液2	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	3	呼吸1	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	4	呼吸2	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	5	消化と吸収1	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	6	消化と吸収2	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	7	消化と吸収3	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	8	消化と吸収4	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	9	内分泌1	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	10	内分泌2	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	11	内分泌3	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	12	生殖	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	13	腎・泌尿器1	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	14	腎・泌尿器2	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
	15	代謝と体温	事前:テキストの関連内容の予習 事後:プリントとテキスト		2	
授業方法	講義形式(パワーポイントとプリント)					
評価方法	筆記試験					
テキスト	岡田 隆夫/他著 『標準理学療法学・作業療法学 生理学』 医学書院					
参考文献	大地陸男/著 『生理学テキスト』 文光堂 『PT/OT国家試験・基礎医学』 医歯薬出版					
履修上の 注意事項	予習、復習を行なうことが望ましい。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	生理学Ⅲ		担当教員	井口 祥平、清水 浩之		
実習内容	実務経験					
授業概要	生理学Ⅰ・Ⅱで学習したことを基盤に、運動によって生じる身体機能の変化を実際に測定・観察する。理学療法にとって客観的指標は極めて重要となり、測定によって得られたデータの解釈を理解することは極めて重要となる。本講義では、測定することを体験しながら生理学データを測定、読み解くことを学ぶ。					
達成目標	1.身体計測を実施し、各個人のデータと基準を比較し説明できる。 2.血圧測定の意義を理解し、説明できる。 3.体力測定の意義を理解し、説明できる。 4.心電図の意義を理解し、説明できる。 5.筋電図の意義を理解し、説明できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション / 身体計測 説明	事後:身体計測の意義を復習する		2	
	2	身体計測 測定実習	事前:身体検査の項目を予習する。 事後:得られた結果を整理する。		2	
	3	身体計測 レポート作成	事前:レポートの形式を作成する。 事後:レポートの修正、提出をする。		2	
	4	血圧測定 説明	事前:血管系の名称・機能を復習する。 事後:血圧の意義を復習する。		2	
	5	血圧測定 測定実習	事前:血圧測定の方法を予習する。 事後:得られた結果を整理する。		2	
	6	血圧測定 レポート作成	事前:レポートの形式を作成する。 事後:レポートの修正、提出をする。		2	
	7	新体力測定 説明	事前:新体力テストの項目を予習する。 事後:新体力測定の意義を復習する。		2	
	8	新体力測定 測定実習	事前:新体力テストの方法を予習する。 事後:得られた結果を整理する。		2	
	9	新体力測定 レポート作成	事前:レポートの形式を作成する。 事後:レポートの修正、提出をする。		2	
	10	心電図 説明	事前:循環器の機能解剖を復習する。 事後:心電図の意義を復習する。		2	
	11	心電図 測定実習	事前:心電図の方法を予習する。 事後:得られた結果を整理する。		2	
	12	心電図 レポート作成	事前:レポートの形式を作成する。 事後:レポートの修正、提出をする。		2	
	13	筋電図 説明	事前:筋の収縮過程について復習する。 事後:筋電図の意義を復習する。		2	
	14	筋電図 測定実習	事前:筋電図の測定方法を予習する。 事後:得られた結果を整理する。		2	
	15	筋電図 レポート作成	事前:レポートの形式を作成する。 事後:レポートの修正、提出をする。		2	
授業方法	講義、実習、レポート作成					
評価方法	レポート、終期テスト					
テキスト	大槻伸吾/編著 『フローチャートで学ぶ運動生理学実習』 建帛社					
参考文献	岡田隆夫/他著 『標準理学療法学・作業療法学 生理学』 医学書院 小澤澗司/他監 『標準生理学』 医学書院					
履修上の 注意事項	実習を実施するため、動きやすい服装で受講すること。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	体表解剖学		担当教員	西村 壽晃		
			実務経験	○		
実習内容	治療院での経験を生かし生きた教育					
授業概要	理学療法を行う過程において「評価」は大変重要な位置を占める。また、「正確な評価」が出来なければ「効果的な治療」を対象者に提供出来ない。その「正確な評価」「効果的な治療」を実施するにおいて、対象者の身体部位を適切に触り、把握することは、基本中の基本である。 本講義において、対象者の身体部位を正確に「触診」出来るよう「骨指標」の触診を中心に、その知識と技術を学ぶ。					
達成目標	1 体表における骨・腱の指標を正確に触ることが出来る 2 同じ部位・指標でも個体差があることを把握する 3 身体に水性ペンにおいて直接投影することで身体のイメージマップを作り上げる 4 本講義においては筋の触診までは行えないが、今後、「筋の触診」を習得するに於ける基礎を作る					
学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)			
授 業 計 画	1	オリエンテーション 触診とは?	事前:解剖学(骨・筋・腱・靭帯)の復習		4	
	2	触診の手技、習得に必要なコツなど	事前:解剖学(骨・筋・腱・靭帯)の復習		4	
	3	骨の触診(外後頭隆起、乳様突起、C2~7・TH1棘突起)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		2	
	4	骨の触診(肩甲骨:内外側縁、肩甲棘、棘三角、肩峰、関節窩)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		2	
	5	骨の触診(腸骨稜、ASIS、PSIS、Th3、7、12、L4、S2)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		2	
	6	骨の触診(Th2~S2)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		2	
	7	骨の触診(座骨結節、大転子、膝蓋骨)、膝蓋靭帯	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		2	
	8	骨の触診(脛骨内外側プラトー、大腿骨内外側上顆、内転筋結節)、靭帯の触診(膝関節外側側副靭帯、内側側副靭帯)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		2	
	9	骨の触診(腓骨頭、外果、脛骨前縁・後内側縁)、腱の触診(前脛骨筋腱)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		2	
	10	骨の触診(外果、舟状骨結節、載距突起、第5中足骨底)、腱の触診(後脛骨筋腱、長・短腓骨筋腱)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		2	
	11	骨の触診(烏口突起、大・小結節、結節間溝、三角筋粗面)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		2	
	12	骨の触診(上腕骨内・外側上顆、橈骨頭、尺骨後縁、尺骨茎状突起、肘頭)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		2	
	13	骨の触診(尺骨頭、リスター結節、手根骨)、腱の触診(尺・橈側手根屈筋腱、長掌筋腱、長・短母指伸筋、長母指外転筋腱)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		2	
	14	腱の触診(総指伸筋腱、示指伸筋腱、小指伸筋腱、上腕二頭筋腱)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		2	
	15	腱の触診(半腱・半膜様筋腱、大腿二頭筋腱、長趾・長母指伸筋腱、第3腓骨筋腱)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		2	
授業方法	講義、ほぼ実技(ポイント・コツ等の説明、デモンストレーション後にペアにて実践)、水性ペンにて身体に実際に投影する					
評価方法	筆記試験(50%)、実技試験(50%) ※実技試験において60%クリアしていない場合は、筆記・実技の合算において60%を超えていても不可とする					
テキスト	青木 隆明/監 『運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢』 青木 隆明/監 『運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹』 メディカルビュー					
参考文献	河上 敬介/他編 『改訂第2版 骨格筋の形と触察法』 大峰閣					
履修上の注意事項	いつでも露出できるよう原則半袖・半パン等にて臨むこと(場合によっては水着等) 水性ペンにて直接身体に投影するため、バスタオルおよびウエットティッシュを各自で準備しておくこと					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	運動学 I		担当教員	山口 宗明		
実習内容	実務経験					
授業概要	前半では、身体活動の基礎となる関節の構造、機能、運動についてと、運動力学の基礎となる力、トルク、ベクトル、槌子について学ぶ。 後半では、肩関節複合体から手指までの骨と関節運動、筋活動について学ぶ。					
達成目標	単元ごとに、運動学的、運動力学的事実を理解し、説明が出来る。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	関節構造と機能	事後:関節構造・関節運動と運動面の復習		1	
	2	関節運動	事後:関節運動の復習(運動の名称)		1	
	3	筋の構造 収縮 長さ張力曲線	事後:骨格筋の構造 収縮メカニズムの復習		1	
	4	力速度曲線 筋肥大と萎縮 結合組織	事後:収縮様式 運動連鎖の復習		1	
	5	運動力学の基礎 力 加速度	事後:力、加速度の復習		1	
	6	トルク 槌子	事後:トルク、槌子の復習		1	
	7	三角関数と運動力学(1)	事後:計算問題実施		1	
	8	三角関数と運動力学(2)	事後:計算問題実施		1	
	9	肩関節複合体 関節と骨運動	事後:講義内容の復習		1	
	10	肩関節複合体 筋機能	事後:講義内容の復習		1	
	11	肘と前腕 関節と骨運動	事後:講義内容の復習		1	
	12	肘と前腕 筋機能	事後:講義内容の復習		1	
	13	手関節 関節と骨運動 筋機能	事後:講義内容の復習		1	
	14	手指 関節と骨運動	事後:講義内容の復習		1	
	15	手指 筋機能	事後:講義内容の復習		1	
授業方法	講義					
評価方法	定期試験、授業態度					
テキスト	嶋田智明/監訳 『筋骨格系のキネシオロジー』 医歯薬出版株式会社					
参考文献						
履修上の注意事項	分からないことはそのままにせずに、必ず理解に努めること 復習を欠かさないこと					

開講時期	1年生 夜間部 後期	分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	人間発達学	担当教員	竹下 昌宏		
実習内容					
授業概要	人間の発達を胎生期から老年期に至るまでの諸期間において、身体的発達、運動発達、心理的発達を知る。 新生児期から乳・幼児期の運動発達を中心に各ライフステージでの特徴を知る。 正常発達を理解し異常発達の特徴を知る。				
達成目標	運動発達、発達検査、反射・反応を理解する。 各ライフステージでの発達の特徴を理解する。 正常発達を理解し小児疾患の特徴を捉える。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	発達概念	事前:発達概念の予習 事後:発達概念の復習	1	
	2	発達理論と発達検査	事前:発達理論と発達検査の予習 事後:発達理論と発達検査の復習	1	
	3	姿勢反射・反応	事前:姿勢反射・反応の予習 事後:姿勢反射・反応の復習	1	
	4	運動発達0～3ヶ月	事前:運動発達0～3ヶ月の予習 事後:運動発達0～3ヶ月の復習	1	
	5	運動発達4～6ヶ月	事前:運動発達4～6ヶ月の予習 事後:運動発達4～6ヶ月の復習	1	
	6	運動発達7～9ヶ月	事前:運動発達7～9ヶ月の予習 事後:運動発達7～9ヶ月の復習	1	
	7	運動発達10～12ヶ月	事前:運動発達10～12ヶ月の予習 事後:運動発達12ヶ月までの復習	2	
	8	運動発達13ヶ月以降	事前:運動発達13ヶ月以降の予習 事後:運動発達13ヶ月以降の復習	1	
	9	学童・青年期の発達	事前:学童・青年期の発達の予習 事後:学童・青年期の発達の復習	1	
	10	成人・老年期の発達	事前:成人・老年期の発達の予習 事後:成人・老年期の発達の復習	1	
	11	上肢及びADLの発達	事前:上肢及びADLの発達の予習 事後:上肢及びADLの発達の復習	1	
	12	社会性の発達	事前:社会性の発達の予習 事後:社会性の発達の復習	1	
	13	小児疾患①	事前:小児疾患の予習 事後:小児疾患の復習	1	
	14	小児疾患②	事前:小児疾患の予習 事後:小児疾患の復習	1	
	15	まとめ	事前:各講義の要点整理 事後:人間発達学の要点整理	2	
授業方法	基本テキストに沿って授業を進めます。必要に応じて資料の提示や動画を視聴します。				
評価方法	出席率・授業態度(20%)、小テスト(20%)、期末試験(60%)				
テキスト	上杉雅之/監 『イラストでわかる人間発達学』 医歯薬出版				
参考文献	必要に応じて提示				
履修上の 注意事項	テキストに沿っての授業となりますので、予習・復習をしてください。 前回履修内容の小テストを実施します。				

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	一般臨床医学		担当教員	高折 洋		
実習内容			実務経験			
授業概要	医療関係の学習をするにあたって、基礎的な知識を身に着けることは極めて大切であるが、その知識が単なる知識にとどまらず、臨床の現場で実際に役立つものであることは更に重要である。本講義では、1年生ということも考慮し、基礎知識をしっかりと記憶するとともに、臨床現場の実情等も可能な範囲説明し、将来の実習更には、理学療法士として現場で勤務する際にも役立つ臨床医学を学ぶ。					
達成目標	1.医学をこれから学ぶにあたって基礎的な知識を身に着ける。 2.特に臨床と直結した基礎知識の習得に重点を置く。 3.基礎知識が現場でなぜ必要かも理解する。 4.将来の理学療法実習に役立つ臨床現場の実情と雰囲気をも可能な範囲で理解する。 5.将来の実習や、現場での勤務に必要な医学的雑学を身に着ける。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	診察の基本 医療面接 バイタルサインの診察	事後:プリントの見直し		1	
	2	救命救急医療①(心肺蘇生法、心臓の仕組みとAED)	事前:前回プリントの見直し 事後:小テストの復習		2	
	3	一般検査、血液検査、生化学検査(1)	上記と同様		2	
	4	生化学検査(2)免疫血清検査等 心電図(1)	上記と同様		2	
	5	心電図(2)、筋電図、肺機能検査、骨量測定	上記と同様		2	
	6	救命救急医療②(ショック、呼吸管理、輸液と輸血)	上記と同様		2	
	7	外科疾患(損傷)	上記と同様		2	
	8	外科疾患(感染性疾患、末梢血管障害)	上記と同様		2	
	9	外科疾患(腫瘍)	上記と同様		2	
	10	画像検査と脳血管障害(1)	上記と同様		2	
	11	画像検査と脳血管障害(2)	上記と同様		2	
	12	薬理学と薬物療法	上記と同様		2	
	13	メタボリックシンドローム 高齢者について	上記と同様		2	
	14	高齢者の疾患	上記と同様		2	
	15	皮膚疾患	上記と同様		2	
授業方法	講義					
評価方法	筆記試験(80%) 受講態度等(20%)					
テキスト						
参考文献						
履修上の 注意事項	毎回の小テストのを徹底的に復習する。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	リハビリテーション医学		担当教員	池尾 忠思		
			実務経験	○		
実習内容	リハビリテーションの知識、技術を指導					
授業概要	リハビリテーション医学の基礎や障がい学について学ぶ					
達成目標	医学の基本を理解する。疾病の概念・総論を理解する。健康と生活機能の評価を理解する。リハビリテーション計画を理解する。リハビリテーションチームと多職種連携を理解する。共通する機能障害の病態やそのメカニズムを理解する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	リハビリテーション医学とは	事後:授業内容の復習		1	
	2	リハビリテーション医学(分類等)	事前:リハビリ概論の復習 事後:分類について復習		2	
	3	障がい学	事前:障がいについて予習 事後:障がいについて復習		2	
	4	日本の身体障がい者の動向	事前:身体障がいについて予習 事後:身体障がい者について復習		2	
	5	リハビリテーション医学と障がい学	事前:正常について予習 事後:正常と異常について復習		2	
	6	リハビリテーションの専門分野(理学療法)	事前:理学療法について予習 事後:理学療法について復習		2	
	7	リハビリテーションの専門分野(作業療法)	事前:作業療法について予習 事後:作業療法について復習		2	
	8	リハビリテーションの専門分野(言語聴覚療法)	事前:言語聴覚療法について予習 事後:言語聴覚療法について復習		2	
	9	リハビリテーション医学と関連職種	事前:関連職種について予習 事後:関連職種について復習		2	
	10	チームアプローチ	事前:リハチームについて予習 事後:チームの役割について復習		2	
	11	障がい別リハビリテーションの実際(関節拘縮と関節可動域訓練)	事後:関節可動域の復習		2	
	12	筋力低下と筋力増強訓練	事前:筋力低下について予習 事後:筋力増強訓練について復習		2	
	13	運動麻痺と神経筋再教育	事前:運動麻痺について予習 事後:神経筋再教育について復習		2	
	14	摂食・嚥下障がい	事前:嚥下障がいについて予習 事後:嚥下障がいについて復習		2	
	15	老化・排泄障がい	事前:老化について予習 事後:老化について復習		2	
授業方法	適宜プリントを配布し、ポイントをノートにまとめる。					
評価方法	筆記試験、出席率、授業態度					
テキスト	なし					
参考文献	最新リハビリテーション医学 標準リハビリテーション医学 リハビリテーション総論					
履修上の 注意事項						

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期	分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	リハビリテーション概論	担当教員	市田 修一		
		実務経験			
実習内容					
授業概要	リハビリテーションの理念・過程、諸領域、理学療法士の役割、社会福祉制度等、各項目について講義を中心として学習する。				
達成目標	広義のリハビリテーションについての理解を深める。医療・福祉・介護の連携について学び、リハビリテーションの中での理学療法士の役割を理解する。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	リハビリテーションの歴史、定義	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習	1	
	2	QOL、バリアフリー、ハートビル法	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習	1	
	3	ICIDH、ICF、予防	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習	2	
	4	廃用症候群	事後:教科書・配布資料復習	2	
	5	姿勢、医療面接	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習	1	
	6	高次脳機能	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習	2	
	7	防衛機制、障害受容	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習	1	
	8	医学的リハビリテーション、理学療法プロセス	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習	2	
	9	社会的、教育的リハビリテーション	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習	1	
	10	寝たきり度、認知症度	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習	1	
	11	高齢者のリハビリテーション	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習	1	
	12	リハビリ関連職種(主にPT、OT、ST)	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習	2	
	13	インフォームドコンセント、装具	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習	1	
	14	社会保障制度	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習	1	
	15	介護保険制度、感染症	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習	2	
授業方法	パワーポイント、プリントを使用しての講義				
評価方法	筆記試験、小テスト、出席状況、授業態度を総合して評価する。				
テキスト	中村隆一/編 『入門 リハビリテーション概論』 医歯薬出版				
参考文献	椿原彰夫/編 『リハビリテーション総論』 診断と治療社				
履修上の注意事項	日々の勉学が必要である。積極的に授業に参加し学習すること。他者の迷惑となるような行為は行わないこと。				

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法概論		担当教員	岡林 豊		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	理学療法の歴史、定義、法律、役割、対象や方法等講義形式を中心に講義する。					
達成目標	理学療法と理学療法士について理解を深める。 将来、理学療法士になるために、医療機関や福祉機関、その他の機関で働く際の責任感や考察力を身に付ける。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	理学療法の概念と歴史	事後: 講義内容の復習		1	
	2	理学療法士の法律	事後: 講義内容の復習		1	
	3	理学療法士の関連法規	事後: 講義内容の復習		1	
	4	理学療法の意義と役割	事後: 講義内容の復習		1	
	5	理学療法の対象	事後: 講義内容の復習		1	
	6	理学療法の方法	事後: 講義内容の復習		1	
	7	理学療法の組織	事後: 講義内容の復習		1	
	8	理学療法教育	事後: 講義内容の復習		1	
	9	医療・保健分野の理学療法	事後: 講義内容の復習		1	
	10	地域リハビリテーションと理学療法	事後: 講義内容の復習		1	
	11	医療事故とリスクマネジメント	事後: 講義内容の復習		1	
	12	個人情報の管理と対象者の権利	事後: 講義内容の復習		1	
	13	理学療法士を目指す学生に求められること	事後: 講義内容の復習		1	
	14	臨床教育の実践	事後: 講義内容の復習		1	
	15	理学療法士と研究	事後: 講義内容の復習		1	
授業方法	講義					
評価方法	筆記試験					
テキスト	千住秀明/監 『理学療法学概論』 神陵文庫					
参考文献						
履修上の 注意事項	日々の勉学が重要である。積極的に授業に参加すること。他者の迷惑となるような行為は行わぬこと。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 通年		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法基礎実習		担当教員	専任教員		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	医療・福祉・保健機関においての見学実習を行う。					
達成目標	治療場面の見学等を通して、理学療法業務の概要と対象者の全体像を知る。測定会を通して、検査測定の経験を積み、基本的な検査測定ができる。					
学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)			
授 業 計 画	1	実習前オリエンテーション①	事前:実習要項、感染症ガイドラインを熟読 事後:実習内容復習			2
	2					
	3	実習前オリエンテーション②	事前:実習要項、感染症ガイドラインを熟読 事後:実習内容復習			2
	4					
	5	スタンダードプリコーション	事後:復習			1
	6	見学実習	事前:実習準備 事後:実習振り返り			2
	7					
	8					
	9					
	10	実習後HR	事前:提出物準備			2
	11	実習FB、実習報告書FB	事後:実習報告書修正			2
	12	測定会(検査測定)	事前:理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ復習			4
	13					
	14					
	15					
授業方法	オリエンテーション、実習、測定会					
評価方法	出席率、提出課題、臨床指導者評価を基に各担当教員が評価を行う。					
テキスト	特に定めず					
参考文献						
履修上の注意事項	見学実習施設の職員、指導者の指示に従い、本校学生の立場をわきまえ行動すること。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法評価学 I		担当教員	久保 明裕、吉岡 久美 山川 百代、市田 修一		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	理学療法評価総論、生理機能検査、形態測定、脳神経検査、疼痛評価、深部腱反射、高次脳機能についての学習を実技を含めて行う。					
達成目標	理学療法評価の意義・分類・目的を理解する。検査・測定技術を習得し、正確に実施できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	総論	事前:教科書の該当箇所の予習 事後:ポートフォリオの作成と提出		2	
	2	総論				
	3	総論(バイタルサイン測定確認)	事前:バイタルサイン測定の復習 事後:ポートフォリオの作成と提出		1	
	4	形態測定	事前:教科書の該当箇所の予習 事後:配布資料等の講義内容復習		1	
	5	形態測定	事前:教科書の該当箇所の予習 事後:ポートフォリオの作成と提出		2	
	6	形態測定				
	7	形態測定(確認)	事前:形態測定の復習 事後:ポートフォリオの作成と提出		1	
	8	脳神経検査	事前:教科書の該当箇所の予習 事後:配布資料等の講義内容復習		1	
	9	脳神経検査	事前:教科書の該当箇所の予習 事後:ポートフォリオの作成と提出		2	
	10	疼痛評価				
	11	形態測定 バイタルサイン(確認)	事前:形態測定・バイタルの復習 事後:ポートフォリオの作成と提出		1	
	12	深部腱反射	事前:教科書の該当箇所の予習 事後:ポートフォリオの作成と提出		1	
	13	高次脳機能	事前:教科書の該当箇所の予習 事後:ポートフォリオの作成と提出		2	
	14	高次脳機能				
	15	総確認(オリエンテーション、バイタルサイン、形態測定)	事前:知識・技術の総復習 事後:ポートフォリオの作成と提出		1	
授業方法	講義と実技形式にて実施。					
評価方法	筆記試験、実技試験、出席率、授業態度、提出したポートフォリオを総合して評価。					
テキスト	潮見泰藏/他編 『リハビリテーション基礎評価学』 羊土社 田崎義昭/他著 『ベッドサイドの神経の診かた』 南山堂					
参考文献						
履修上の注意事項	動きやすい服装で参加すること。積極的に参加すること。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法評価学Ⅱ		担当教員	井口 祥平、岡林 豊 木下 拓真、清水 浩之		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	この授業の目的は、ヒトの身体動作を発現するために必要な関節機能と骨格筋機能を評価するために、「関節可動域測定法」と「徒手筋力測定法」について学ぶ。					
達成目標	①関節可動域測定法と徒手筋力測定法の基本技術を独力で実践できる。 ②関節可動域測定法と徒手筋力測定法の結果を解釈できる。 ③関節可動域測定法と徒手筋力測定法の結果と身体動作の関連を考察できる。 ④検査測定をする上でのリスクについて想起し、対応できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション	事前: 関節運動を表す語句の整理、 運動面と軸の整理		1	
	2	肩関節の可動域測定と筋力評価	事前: 肩関節の構造、骨格筋の整理 事後: 肩関節の可動域、筋力評価方法の整理		1	
	3	肩関節の可動域測定と筋力評価:【実技テスト】	事前: 肩関節の可動域、筋力評価方法の整理 事後: 実技テストの振り返り		1	
	4	肘関節、手関節の可動域測定と筋力評価	事前: 肘・手関節の構造、骨格筋の整理 事後: 肘・手関節の可動域、筋力評価方法の整理		1	
	5	肘関節、手関節の可動域測定と筋力評価:【実技テスト】	事前: 肘・手関節の可動域、筋力評価方法の整理 事後: 実技テストの振り返り		1	
	6	股関節の可動域測定と筋力評価	事前: 股関節の構造、骨格筋の整理 事後: 股関節の可動域、筋力評価方法の整理		1	
	7	股関節の可動域測定と筋力評価:【実技テスト】	事前: 股関節の可動域、筋力評価方法の整理 事後: 実技テストの振り返り		1	
	8	膝関節、足関節の可動域測定と筋力評価	事前: 膝・足関節の構造、骨格筋の整理 事後: 膝・足関節の可動域、筋力評価方法の整理		1	
	9	膝関節、足関節の可動域測定と筋力評価:【実技テスト】	事前: 膝・足関節の可動域、筋力評価方法の整理 事後: 実技テストの振り返り		1	
	10	頸部の可動域測定と筋力評価	事前: 頸部の構造、骨格筋の整理 事後: 頸部の可動域、筋力評価方法の整理		1	
	11	頸部の可動域測定と筋力評価:【実技テスト】	事前: 頸部の可動域、筋力評価方法の整理 事後: 実技テストの振り返り		1	
	12	体幹の可動域測定と筋力評価	事前: 体幹の構造、骨格筋の整理 事後: 体幹の可動域、筋力評価方法の整理		1	
	13	体幹の可動域測定と筋力評価:【実技テスト】	事前: 体幹の可動域、筋力評価方法の整理 事後: 実技テストの振り返り		1	
	14	総復習	事前: 全ての評価方法を復習		2	
	15	総復習	事前: 全ての評価方法を復習		2	
授業方法	検査方法の基本事項を講義にて説明し、実技にてその方法を実践する。 奇数の講義回に前講の内容を実技小テストにて評価する。					
評価方法	筆記試験、実技小テスト、授業態度、出席率、ポートフォリオ作成・提出 にて評価する					
テキスト	潮見泰藏/他編 『リハビリテーション基礎評価学』 羊土社					
参考文献	『新・徒手筋力検査法』協同医書出版社 『臨床での測定精度を高める！ROM測定法 代償運動のとらえ方と制動法の理解と実践』MEDICAL VIEW					
履修上の 注意事項	実技が中心となるため、半袖・短パンなど身体を触知しやすい服装にすること					

開講時期	1年生 昼・夜間部 通年		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	レクリエーション		担当教員	池尾 忠思		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	各種ボランティア活動、体育祭への参加。 介護保険施設で実施されている集団体操やレクリエーションを紹介するとともに、グループに分かれ学生自らが考案したものを実施してもらう。					
達成目標	信頼関係の構築と協働作業の実践ができる。 個々の特性を理解したうえで目標達成する能力を養う。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	各種ボランティア活動				
	2					
	3					
	4					
	5	体育祭				
	6					
	7					
	8					
	9					
	10	集団体操とレクリエーションの意義について		事後:意義について復習		1
	11	介護保険施設で実施されている集団体操の実際		事後:介護保険について復習		1
	12	高齢者レクリエーションの実際		事後:レクについて復習		1
	13	グループワーク(上肢の体操)		事前:上肢の筋について予習 事後:上肢の運動について復習		1
	14	グループワーク(下肢の体操)		事前:下肢の筋について予習 事後:下肢の運動について復習		1
	15	グループワーク(体幹の体操)		事前:体幹の筋について予習 事後:体幹の運動について復習		1
授業方法	集団指導、実技指導					
評価方法	出席率、授業態度、レポート提出等					
テキスト	なし					
参考文献	疾患別リハビリ体操、介護予防リハビリ体操					
履修上の注意事項	学生全員が参加できるように配慮する。					